



# 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

※ 電話番号は4月29日から変更になります

92.4.24 No. 8579

## 民5年間の決算その3

### 深刻な経営危機にたつ三島

#### (九州・四国・北海道)

本州のJR三社が、「うれしい誤算」などと、好調な業績をうたいあげるなかで、三島(九州・四国・北海道)JRの経営は、深刻な危機にたつている。ここにも、何の見通しもなく強行された分割・民営化のツケは、まわつてこようとしている。

国鉄分割・民営化の決定にあたって、「民営化」についてはそれなりの理由(らしきもの?)が説明されたが、「分割」については、何故分割しなくてはならないのか、合理的な理由は一切明らかにされなかった。とりわけ、九州・四国・北海道が分割されたときに、どのような展望をもつことができるのかについては、ついに全く触れられることはなかったのである。そして、唯一の手だてが、「持参金」として三島に割り振られた一兆円の「経営安定基金」であった。この五年間、三島J

Rは、「経営安定基金」の運用による七%ほどの利子で何とか食いつないできたのである。つまり、七百億円の利子の発生によつて、やっと百四十億円の經常収支(三島合計)の黒字をだしていたのだ。しかし、本格的に景気後退が始まる状況のなかで、公定歩合はどんどん下がっている。基金の運用益が3%下がれば、たちまち赤字に転落という、薄氷の上に乗っているにすぎないのだ。

そればかりではない。あと三年で税制面での優遇措置がなくなる。現在は、固定資産税も事業税も四分の一に減免されているのだ。(本州三社は二分の一、この四月から優遇措置はなくなっている) そうなれば、九州だけで六〇億円の負担が増えることになる。まさに利益など吹き飛んでしまう。

### 荒廃だけをもたらす分割・民営化

結局もたらされるものは、運賃の大幅な値上げ、鉄道そのもの

の切り捨て、安全を一切無視した合理化、利潤追及という弱肉強食の原理による弱者(地方)の切り捨てである。結局分割・民営化は、荒廃だけをもたらすうとしているのだ。

### 三島JRの子会社化

### まで検討!!

そして、わずか五年にしてすでに、分割・民営化体制の全面的な見直し三島JRを本州三社の子会社とする検討まで組上りのぼつているというのだ。分割・民営化体制はいたるところから矛盾を吹きだしつつある。次号へつづく

### 三島JRの業績 (91年3月期決算)

	九州	四国	北海道
經常利益	55億3900万円	84億6800万円	16億1100万円
経営安定基金	3877億円	2082億円	6822億円

# 4.29反戦統一行動

## PKの法案を廃案へ!

とき 4月29日 13時から

ところ 東京・日本青年館(信濃町駅下車徒歩10分)

指定列車 千葉駅11時17分(10番線)快速最後部